

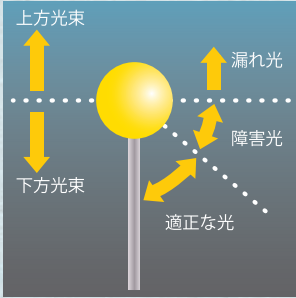
子どもたちに伝えたいこと

坂下星見の会では各地で星の講座を行っています。主に移動式プラネタリウムで星空を出前したり、鈴鹿峠自然の家での自然教室の中で、童夢を利用した観望会を行ったりしています。絶好の環境で普段味わえない体験をすることは、子どもたちにとって忘れられないものになるはずです。また、瀧本さんは子どもたちに光害についてもお話ししています。きれいな星空を見るために、光害を減らす方法を、大人になった時にも覚えてもらえれば…という願いがこもっています。



写真：三重県環境学習情報センター

光害が与える影響



障害光によって人間は眩しさを感じ、視認性が低下するといわれています。光害は夜空が明るくて星が見えにくいだけでなく、動物や植物、人間活動にまで影響を及ぼしています。

ホタルの繁殖



ホタルの成虫は発光することによって、交尾をする相手をさがします。周辺の光が、ホタルの発光活動を抑制してしまう恐れがあります。

農作物



イネのような短日性植物は連続した長い暗期が必要であるといわれています。そのため水田に近い屋外照明によって、イネは出穂が遅れたり、収穫量が減少することがあります。

写真：三重県環境学習情報センター

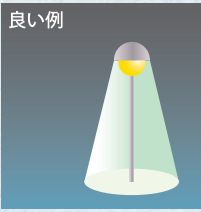
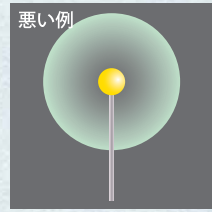


御在所岳山上から撮影した四日市市街地方面

大気中のちりやほこりに当たって、夜空が明るくなっているようすがよくわかります。

良好な照明とは？

目的とする範囲以外まで照らしているので、光は拡散されます。



傘があると、上方へ向かう光はカットされます。必要な範囲を照らします。

私たちにできること

みなさんの住む街では夜空はどのように見えますか？周辺の明かりからどれくらいの光が夜空に放たれているでしょうか。星空観察を続けていると、夜空の環境の変化を感じることが出来ます。必ずしも暗い環境がよいというわけではありません。安全面から街灯などが必要な場合もあり、光は私たちの生活にとって無くてはならないものです。

瀧本さん「空に漏れない方法で照らしたり、過剰で不必要な光は減らすなど、光を上手に利用することが光害の防止につながります。」

例えば家の中では、いらぬ電気が消したり、カーテンを閉めることで外に出る光を抑制します。また、不要な光をできるだけ抑えようとすれば電気の無駄遣いもなくなり、CO₂の削減にもなります。

これからはただ明るければよいというのではなく、そこに住む人間や生物にとって、悪影響を及ぼすことなく、安全で快適な光環境を作ることが理想です。そうすれば、みなさんの家からきれいな天の川が見えるようになるかもしれません。